

千波湖の「プランクトン」を調べました

～第1回千波湖環境学習会～

五月晴れの空の下、千波湖の鯉がはねる音と子どもたちの元気な声が親水デッキに響きました。

水戸市と協働事業で実施している千波湖環境学習会は、今年で11年目を迎えます。

今年度の初回は、5月11日に「千波湖のプランクトンを調べよう」をテーマに千波湖畔の親水デッキを会場として、親子96名の参加者で開催しました。

当日は、水戸市のマスコット「みとちゃん」が今年も応援に来てくれたため、子どもたちは大喜びでした。



みとちゃんと記念撮影



プランクトンを顕微鏡で観察

及びプランクトンの観察をしました。

最後に、二班が合流し講師からCOD（化学的酸素要求量）とパックテストの検査方法の説明を受け、各々が採水した水を用いて実験をしました。

今回のプランクトンの観察では、植物プランクトンの緑藻類（クンショウモ、ミカヅキモ、アオミドロ）と動物プランクトン（ゾウミジンコ）などを確認することができました。COD値は8mg/Lであることがわかりました。

今回学習会に参加していただいた方々に、千波湖のプランクトン及び水質環境に関心を持っていただけたのではないかと思います。

今年度の千波湖環境学習会もたくさんの方々の参加をお待ちしております。

最後に、今回、顕微鏡を貸していただいた茨城県霞ヶ浦環境科学センター様、学習会に華を添えていただきました「みとちゃん」、子どもたちにお菓子を提供いただいた東部燃焼器具販売株式会社様に感謝申し上げます。

参加者が多かったので、子どもたちを二班に分けそれぞれ学習することにしました。

最初に、一班がスワンボートに乗り、この後実験で使用する千波湖の水を採水しました。

もう一班は、簡単なクイズを交えながらプランクトンの説明を聞いた後、当日プランクトンネットを使い千波湖で採取した水を顕微鏡で観察しました。次に班を交代し、ボートでの採水



スワンボートに乗って採水

ホタルを観察しました

～第2回千波湖環境学習会・水戸市環境フェア 2019 前夜祭～

水戸市環境フェア 2019 の前夜祭として、第2回千波湖環境学習会を6月1日に開催しました。大人子ども合わせて250人もの参加があり、大変賑わいました。また、水戸市の姉妹都市である敦賀市からつるが環境みらいネットワークの皆様や、昨年度開催された世界湖沼会議でコラボレーションした劇団シンデレラの皆様も駆けつけてくれ、観察会を盛り上げてくれました。

開始前の午後5時から、東部燃焼器具販売株式会社様とアストロプラネット様によりストラックアウトが設置され、学習会開始まで多くの子どもたちがチャレンジし楽しんでいました。



ストラックアウトを楽しみました

午後7時から学習会がスタートし、ホタルが飛び始めるまでの間に行われた講師からのホタルの生態についての解説に、参加者は興味深く聞き入っていました。その後のホタルクイズでは、我先に答えようとするたくさんの子どもたちの元気な声が響き渡っていました。

そして、いよいよホタルが光り出す時間になると、事務局からホタル観察にあたっての

注意事項の説明があり、2グループに分かれスタッフの誘導のもと、観察を開始しました。今年は雨が少なく、ホタルの成長が間に合うか心配でしたが、その心配をよそに多くのホタルが姿を見せてくれ、参加者は感動



ホタルの生態についての解説を聞く参加者

の声を上げていました。また、

参加者からは、「こんな身近な場所でホタルが見られるとは思わなかった」という声も多く聞かれ、観察会は大盛況で幕を閉じました。

参加者の皆様に飲料を提供していただいた水戸ヤクルト販売株式会社様、誘導などで協力いただいた一般財団法人水戸市公園協会及び水戸市生活環境部の皆様にお礼申し上げます。

みんなで協力してビオトープを作りました！

～第3回千波湖環境学習会・水戸市環境フェア 2019 関連事業～

第3回の千波湖環境学習会は、水戸市環境フェア関連事業として、6月2日に開催しました。当日は午前9時から整理券配布、午前9時半開始と早い時間にもかかわらず、親子を中心に250名もの参加者が集まりました。

今回のビオトープ作りのために準備した植物は、ヨシやガマ、カキツバタなど合わせて3,440本にもなりました。植物の本数の多さにイベント時間内にすべて植え終わることができるか不安でしたが、参加者全員が力を合わせ、協力して作業をしていくことで無事にスケジュールどおりに進めることができました。



植え込み前に記念撮影、やる気十分です

服が泥で汚れることもいとわずに夢中で作業する子どもたちの姿を見て、この子どもたちが大人になるころの千波湖は、今よりもきれいな水となり、生き物の生息地としても今以上に豊かになっていることだろうと心強く感じました。

千波湖にビオトープを作る活動は平成24年度に始まり、今年で8回目の活動になります。これまでに造成したビオトープは、1周約3kmの千波湖の1割に当たる300mにもなります。ビオトープとは、ドイツ語で生物を意味するビオと場所を表すトープを合わせた言葉で、多様な生き物が生息する空間を意味します。特に、水はすべての生き物にとってなくてはならないものであり、水辺の豊かな自然環境は多くの生き物を育みます。また水際にヨシなどの湿生植物を植栽することにより、窒素やリンなどの水中の栄養分を吸収し、水質を良くする効果があります。これまでに作られたビオトープは小魚やエビ類の貴重な生息地となっています。



みんな真剣な表情で作業をしています

今回の「ビオトープを作ろう！」は、数多くの協力団体の皆様のご協力により開催することができました。はるばる愛知県から劇団シンデレラの皆様が、水戸市と姉妹都市である福井県敦賀市からは、つるが環境みらいネットワークの皆様が駆けつけてくださいました。

最後に、イベントの共同開催ならびに参加者の皆様に記念品や飲み物を提供いただいた、千波湖水質浄化推進協会様にお礼申し上げます。

こどもムシムシ探検隊

～第4回千波湖環境学習会・水戸市環境フェア 2019 関連事業～

第4回の千波湖環境学習会は、第3回に引き続き2日の午後に開催しました。午前9時から整理券を配布したところ、午前中には募集人員100名(子どものみ)に達し、親子で200名を超える方々の参加がありました。

あいにくの曇りという天気でしたが午後2時に協会ブースに集合して、開会式を行いました。

開会式が終わってよいよ、ムシムシ探検に出発、子どもたちは虫採りアミとケースをもらい、すでに虫を採る気満々で出発です。

はじめは、ふれあい広場南側にある流れのまわりで、トンボなどを観察し、採集に挑戦。ここではシオカラトンボ、オオシオカラトンボ、コシアキトンボなどが観察できました。その後、少年の森へ移動し、雑木林でしばらく自由に昆虫を採集しました。ここではコクワガタを採集した子どもたちがいて、盛り上がっていました。

また、昆虫ではありませんが、ダンゴムシも沢山観察できました。

最後は、少年の森の広場へ移動し、モンシロチョウや明るい草原を好むバッタの仲間などの採集に挑戦しましたが、飛んでいるチョウは走って追いかけてもなかなか採集が難しく、それでも子どもたちは、楽しそうに走り回っていました。

午前中のビオトープを作ろうにも参加していただいた劇団シンデレラの皆様をはじめ千波湖水質浄化推進協会様、他多くのサポートもあり、無事観察会を進行することができました。ありがとうございました。また、記念品や飲み物を提供いただいた千波湖水質浄化推進協会様、有限会社 沼田クリーンサービス様にお礼申し上げます。



探検前の開会式



林の中でムシムシ探検

千波湖内に入って魚たちを調べました！

～第5回千波湖環境学習会～

当協会では、身近な自然環境を守る大切さを学ぶ「千波湖環境学習会」を水戸市との協働事業として開催してきました。今年度も計10回の協働事業として開催を計画しており、7月28日に第5回目を開催しました。夏休みを利用した家族連れが多く、126名の参加がありました。

千波湖の西側（放流橋から西側）は、通常、生物類の採取や魚釣りが禁止されていますが、特別な許可により、本学習会では実際に千波湖に入って生物を採取することができます。

子どもたちには、千波湖岸辺に生息する水生生物（魚類、エビ等の甲殻類など）の採取方法の説明を受けてもらい、また、水生生物に関するクイズに答えてもらうなどして、事前に知識を付けてもらいます。その後、仕掛けたカゴ罟の中の水生生物、手持ちアミで採取した水生生物を水槽、タライに入れて生物の観察を行い、さらに講師による生態などのレクチャーを受けて知識を深めてもらいます。

子どもたちは、ボートに乗って魚採り用のカゴ罟を回収するグループと虫取り網を使って岸辺の魚を捕る2つのグループに分かれて生物採取を行いました。

魚採り用のカゴ罟を回収するグループは、ライフジャケットを着用して、ボートに乗ってスタッフと一緒に回収しました。また、手持ちアミで岸辺の魚を捕るグループは、子どもたちが深みに入らないようスタッフに見守られながら、膝くらいまで水に入って生物を採取しました。



魚採り用のカゴ罟を回収するグループ



手持ちアミで岸辺の魚を捕るグループ

今回の学習会では、カゴ罟に大きなカムルチーが掛かりました。子どもたちは興味津々で触れたがっていましたが、カムルチーはどう猛で噛み付くこともあるそうで、手を触れずに眺めていました。また、特定外来生物なので持って帰って飼育すること、移動させて放流することが禁止されているとの説明もありました。

カムルチーのほかにも特定外来生物のアメリカナマズ、ブルーギル等が過年度の学習会で確認されており、在来種の生育が危ぶまれます。一方で、今回も在来生物のモツゴ、タモロコ、ヌマチチブ、ヨシノボリ等の魚類、テナガエビなどの甲殻類が例年通り捕れたほか、ナマズ（鯰）も採れました。千波湖には外来生物に負けず在来生物が生息できる自然環境が保たれていることが確認できました。



大きなカムルチーが採れました



採取した魚の生態などの説明

千波湖で採取された生物（平成29年度～令和元年度）

No.	種類		令和元年度	平成30年度	平成29年度
1	魚類	在来種	モツゴ	モツゴ	モツゴ
2			タモロコ	タモロコ	タモロコ
3			ヌマチチブ	ヌマチチブ	ヌマチチブ
4			ヨシノボリ	ヨシノボリ	ヨシノボリ
5			ナマズ	ウキゴリ	
6		外来種	コイ※		コイ※
7			カムルチー		アメリカナマズ
8					ブルーギル
9	甲殻類	在来種	テナガエビ	テナガエビ	テナガエビ
10			スジエビ		スジエビ
11					モクズガニ
12	亀類	在来種			イシガメ
13		外来種			クサガメ
14					ミシシippアカミミガミ
※諸説あり					

最後になりますが、気温が非常に高い中、生物採取に協力いただいた参加者の皆様、飲料水を提供いただいた、いばらく乳業株式会社様、その他協力頂いた皆様にお礼申し上げます。

千波湖周辺の昆虫を調べました

～第6回千波湖環境学習会～

「千波湖周辺の昆虫を調べよう」をテーマに、今年度6回目の千波湖環境学習会を8月18日に開催し、103名の参加がありました。

親水デッキでの開会式の後、ふれあい広場を経由して少年の森へ向かうコースで、最初は少年の森に上がる手前の水路でトンボを観察しました。運よくオニヤンマを手にした子どもたちから歓声が上がっていました。

少年の森へ入った後は、どんなセミがこの森にいるのかセミの抜け殻を集めて調べることにしました。セミの抜け殻を見つけるたびに「あった!」「見つけた!」という大きな声が聞こえていました。

そのほか、子どもたちが思い思いに採集した虫を持ち寄り、どんな虫がいるのか調べました。

セミの仲間は、ニイニイゼミ、ミンミンゼミ、アブラゼミ、ヒグラシの羽化殻がついていました。

蝶は、モンシロチョウ、アカボシゴマダラ、ナガサキアゲハが見られ、小さなエノキではアカボシゴマダラの幼虫も観察しました。

またハラビロカマキリが体をゆすりながら木を上っていく様子を興味深く観察出来ました。

少年の森北側の水路ではオニヤンマやシオカラトンボが見つかりました。

8月前半の猛暑からは開放されましたが、最高気温は31度を超えており、子どもたちは汗びっしょりになりながらも夢中で虫を追いかけていました。

親水デッキに戻った後は、子どもたちにアイスのプレゼントがあり、アイスを食べ休んでいる間、子どもたちは、「絵日記にかけるね～」などと楽しそうに話していました。

暑い中の学習会でしたが、お母さん方も汗をかきながら子どもたちと一緒に歩き回り、楽しい思い出になったかと思います。最後に、アイスを提供していただいた、いばらきコープ様にお礼申し上げます。



どんな虫が採れたのか、みんなで勉強しました



アカボシゴマダラの幼虫に興味津津

